2020年3月30日

各　位

会　社　名　株式会社トランザス
代 表 者 名　代表取締役社長　藤吉　英彦
（コード番号：6696　東証マザーズ）
問 合 せ 先　取締役経営管理部長　奥　文郎
（TEL. 045-650-7000）

＜マザーズ＞投資に関する説明会開催状況について

以下のとおり、投資に関する説明会を開催いたしましたので、お知らせいたします。

○　開催状況

開催日時　　2020年3月27日（金）　18:00（動画の公開日時）
開催方法　　コーポレートサイトにおける決算説明動画の掲載
URL：
https://www.tranzas.co.jp/blog/2020/03/27/2020%e5%b9%b41%e6%9c%88%e6%9c%9f-%e9%80%9a%e6%9c%9f%e6%b1%ba%e7%ae%97%e8%aa%ac%e6%98%8e%e5%8b%95%e7%94%bb/

【添付資料】

説明会において使用した資料「2020年１月期決算説明資料」

以上

2020年1月期決算説明資料

2020年3月27日



Copyright © TRANZAS, Inc. All Rights Reserved.

2020年1月期、トランザスは前期に引続き端末販売型（フロー）ビジネスから（ストック）ビジネスへの事業転換を推し進めました。そして、トランザスのビジネスの一つでもある、デジタルサイネージ事業の進化形、「Platform Planning & Product」 という新しいテーマである、合弁子会社P3を創設し創業を開始しました。Platformとは人々の集まる場であり、それはメディア創りの基点となる集合起点です。本年、トランザスが形創る事が出来た新しいテーマは、トランザスが積み上げた過去からの歴史が生かされる新しい未来の始まりだと感じています。現存する内部に積み上げた成果は過去にない価値の高いものであり、我々は着実に進化している事をお伝えしたく思います。そして、本年度はそれを数字として表し、具現化してまいります。「未来は待つより作る」、その具体的な成果をまもなく皆様に御覧頂けると確信いたしております。

株式会社トランザス
代表取締役　藤吉英彦

FY20 SUMMARY

今期にトランザスが実施した経営テーマ

01 2018年より実施している（フロー）ビジネスからサービス提供型（ストック）ビジネスへの転換に目途をつける

02 期中より発足したP3（Platform Planning & Product）に経営資源を集中し、メディア配信ビジネスを確立させる

03 「現在」「近未来」「次世代」 に製品を分類し、「近未来」のIOTビジネスの製品力強化に開発集中する

今期に実施した製品ラインナップの進化と変化

期首に予定していたビジネスからの変更点と、それぞれのラインナップ進化に関して

① Cygnus Wearable

- 製品ラインナップ不足と、製品完成度の壁に長らく足踏みをいたしておりましたが、Industry4.0の主力となる工場及び物流向けの製品が完成し、大型工場に導入されました。
  導入先にもたらされるRoIの向上に引き続き注力しながら、Q4より営業展開を開始いたしました。

②AIRUX Room controller

- 本格的な消費エネルギー削減AI装置として、シンガポールOTTO社のIoT照明装置と組み合わせフォルクスワーゲンシンガポールに導入されました。2021年１月期より照明・エアコンの消費エネルギー削減装置として、東南アジアから本格的な展開を開始する予定です。

③SHISA 自動チェックイン

- SHISAによる民泊向け自動チェックイン装置は、市況の変化にて投資対効果に陰りが見えた為、日本の民泊市場への営業を一旦中止し、より需要の高い東南アジア向けの入退社装置への転換を進めてまいります。

④ NGH (Next Generation Hospitality)

- 凸版印刷株式会社と共同で、ホテル向けインフォメーションサービスの提供を開始いたしました。また、旅館こうろでも観光チャネルの実証実験を行い、世の中に無かったサービスとして大きな注目を浴びております。2021年1月期には、スピーディーなホテル展開と収益モデルの確立を目指してまいります。

⑤ デジタルサイネージ

- 10年以上の実績を有するデジタルサイネージ事業が、2020年1月期より急激に拡大してまいりました。スマートフォンのショップへの大型LEDと組み合わせたサイネージ導入や、コンビニエンスストアー、スポーツジム等への導入など、急速な広がりを見せております。

⑥ ４G/LTEルーター

- 日本市場では５Gが一般的になるにはまだ時間を要する為、当社でのプライオリティーを下げ当社の他製品「AIRUX・NGH・サイネージ」との組み合わせにて販売展開する方針に変更いたしました。開発資源の投入は暫くペンディングといたします。

対前年比

単位：百万円

	FY20	FY19	対比
売上高	783	694	+88 +12.8%
売上総利益	229	186	+42 +22.9%
営業利益	▲103	△144	+41 _
経常利益	▲102	△146	+44 _
親会社株主に帰属する当期純利益	▲122	△166	+43 _

2019年1月期に比べ売上・利益共に増加とはなりましたが、満足のいく結果には至っておりません。2018年1月期以降、売上構成要素が大きく変化しており事業別では急拡大した事業と縮小傾向にある事業とが混在した内容になっております。

対当初予想比

単位：百万円

	FY20実績	予想値	対比
売上高	783	888	△104 △11.8%
営業利益	▲103	20	△123 —
経常利益	▲102	17	△119 —
親会社株主に帰属する当期純利益	▲122	17	△139 —

持分法適用関連会社である株式会社ピースリーを連結子会社化した為、メディア・プラットフォーム事業で大きな成果が出始めたP3に対する売上・利益が内部取引として消去され、予想を大きく下回る結果となりました。

単位：百万円



新たに発足いたしましたP3のメディアプラットフォーム事業が大きく育ってきたことから、そのメディア運営事業に資するよう、当初見込んでおりましたグループ外への端末販売を取りやめ、グループ内に端末を所有するビジネス形態を選択しました。
結果、全体の2割程度を占める大規模な端末販売が連結上消去される事になり、当初の予想を大きく下回る結果となりました。
しかしながら本端末は、今後、月額ビジネスとしてP3及びトランザスの収益に大きく貢献する見込みです。

ビジネスセグメント別売上

単位：百万円

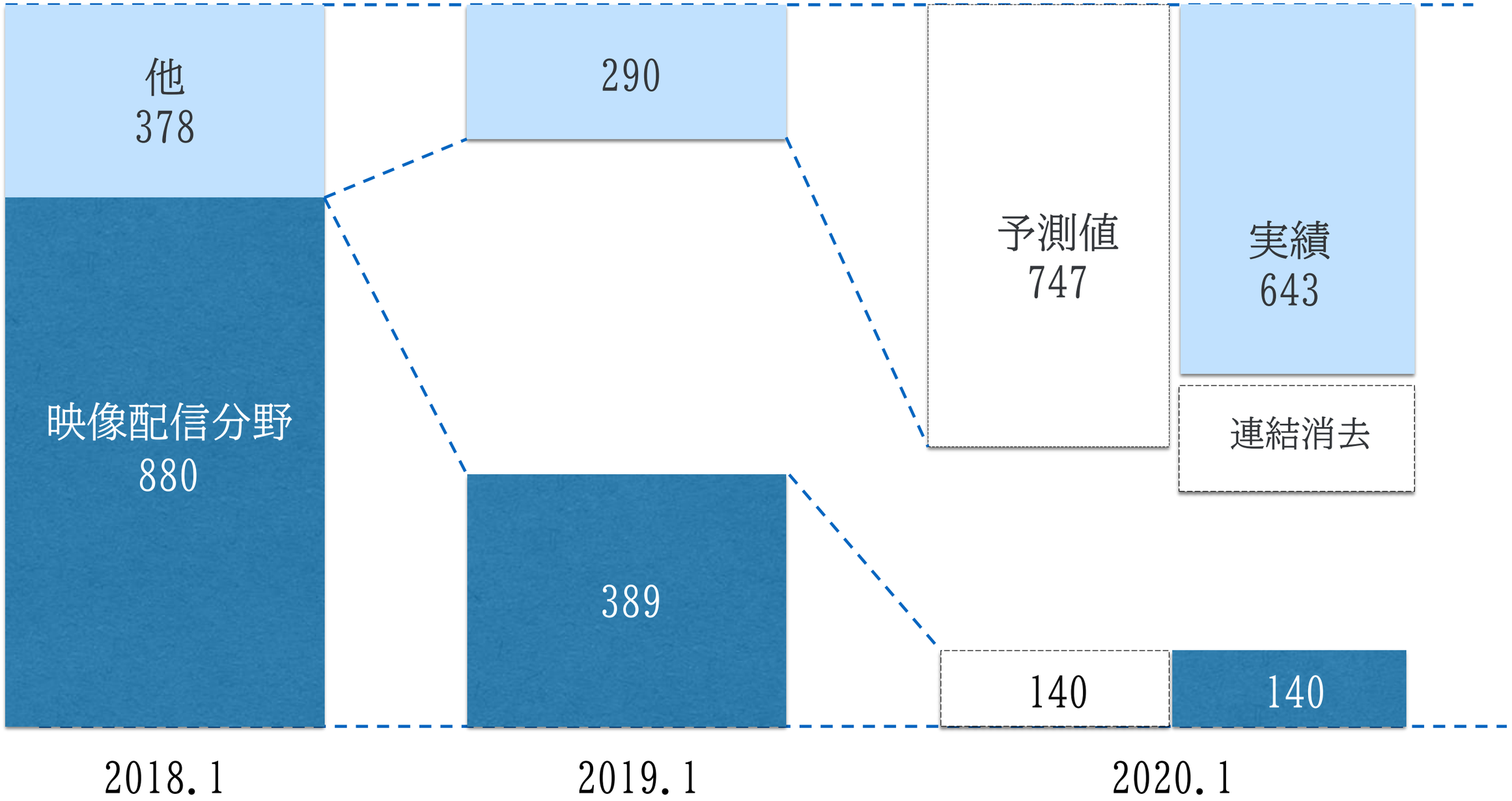
	FY20実績	予想値	達成率
Hospitality市場	370	464	79.8%
Enterprise市場	197	103	191.7%
IoTソリューション	567	567	100.1%
IT技術	146	161	90.7%
ITサービス	68	159	43.2%
合計	783	888	88.2%

民泊向け自動チェックイン装置（端末販売はHospitality市場、販売後のサブスクリプションはITサービス）は、市況の変化によりROIに陰りが見えたため、営業展開を中止いたしました。結果、Hospitality市場とITサービスの売上が予想値を下回る結果となりました。代わりにデジタルサイネージ市場が活性化した事から、Enterprise市場の売上が伸びております。

新規ビジネスへの転換（前期決算説明図より）

昨年からの事業転換は計画通りに推移し、新規事業への推移は順調に進んでおります。

単位：百万円



FY21

TOPICS & FORECAST

連結子会社、株式会社ピースリーの吸収合併

IoT（もの作り）を基盤とした
Platformビジネス開発
Platform Planning & Product

モノ作りとIoT

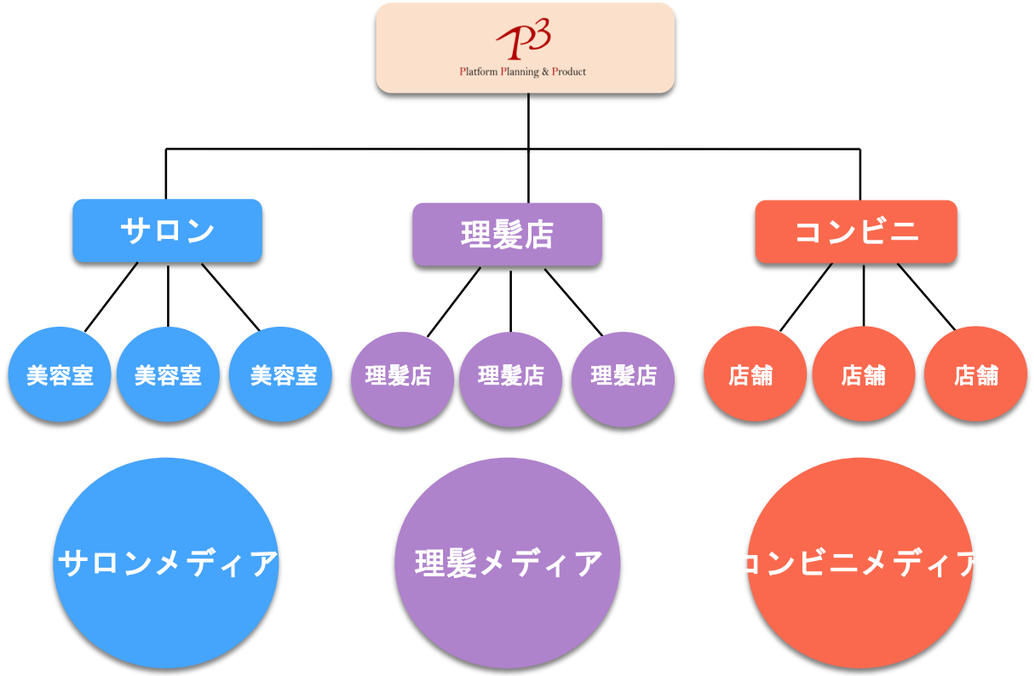
メディアPlatform

これからの社会が求めるのは、デジタルトランスフォーメーション時代の新しい価値の創造
SaaSがソフトウエア販売の概念を壊し、ゲームは無料が当たり前となりました。
モノは売るものでは無く「利用者に提供し・価値を生むもの！」になるのがこの先の世界です

25年間トランザスが積み上げた「モノ作り」の精神を、我々は利用者に価値を与える
サービスPlatformに進化させます。

P3で創り上げたメディアPlatformがFY21に本格稼働を開始いたします。





当社は様々な人の集まる場所に、メディアを創出いたします。
P3-Cloudがそれを大きなマスメディアへ繋げます。

当社のクラウドネットワークが、人がいる所にメディアPlatformを創出します。
１．広告ビジネス　２．配信ビジネス　３．IoT情報ビジネス　４．端末販売ビジネス

メディアPlatformビジネスその１

Digital Garage

広告商品開発/販売/配信
コンテンツ調達/編成

Platform Planning & Product

全端末の開発製造
配信システム構築/運用
Platform運営

3社による協業体制確立



DALIA INCORPORATED

メディアインフラ構築
サロンへのサービス提供
サロンサービスの拡張



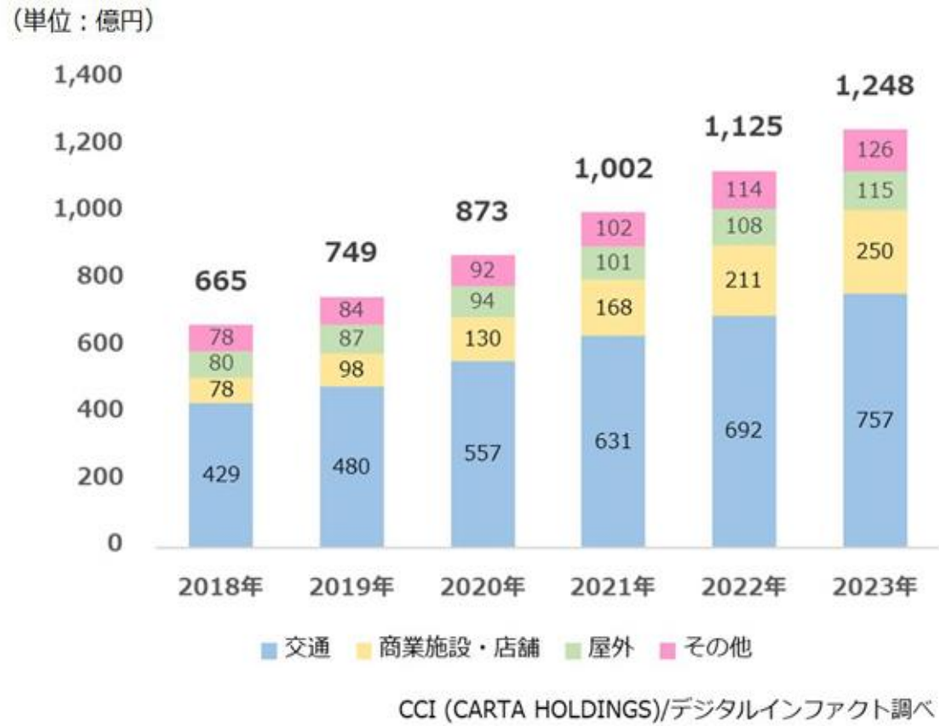
ヘアーサロン向け番組サービスが始まります。
先行3,000店舗 18,000台のメディアインフラを目指し、国内最大規模のDOOHを創出します。

メディアPlatformビジネス収益モデル

我々はメディアPlatformのビジネスオーナーとしてPlatformビジネスを推し進めます。
メディアPlatformに表示される番組広告枠は、当社が権利として保有し、ビジネスを展開いたします。

現在の当社保有の
メディア価値
181,000,000/月

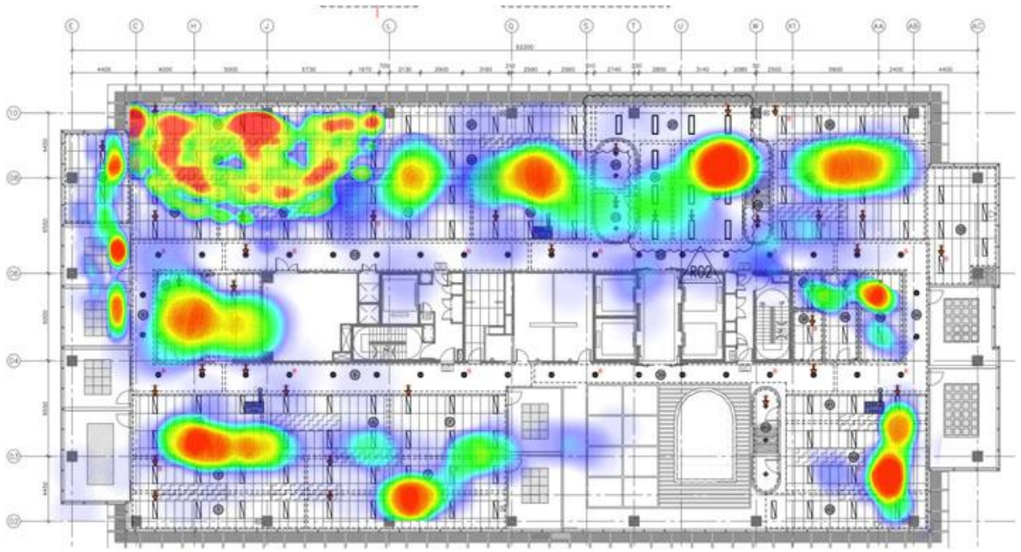
当社メディア
Platformの価値を
高めてまいります。



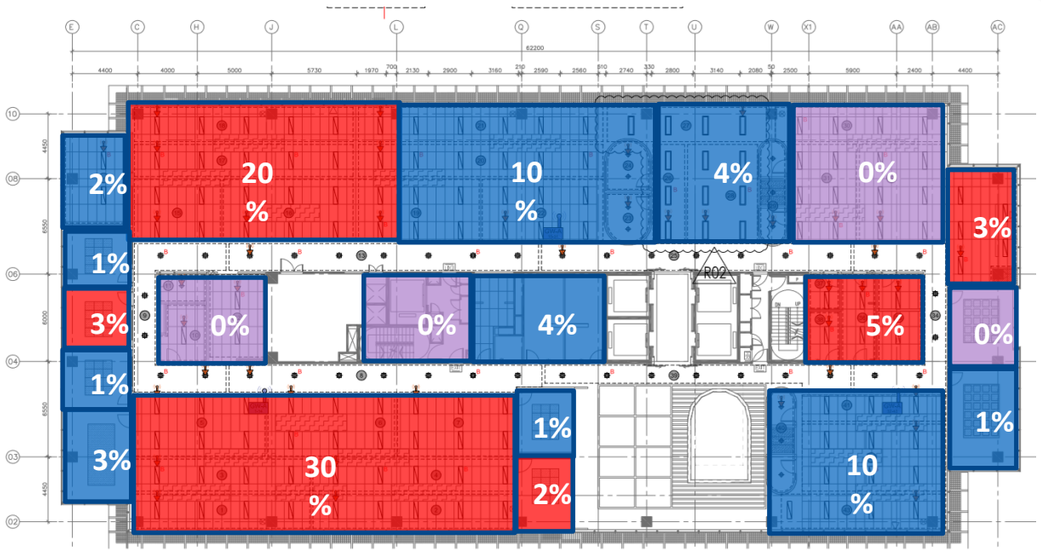
CCI (CARTA HOLDINGS)/デジタルインファクト調べ

今までのトランザスには無い、メディア価値の収益化が、P3によって具現化されます。
第一弾としてスタートしたサロンビジネスでは、パートナーであるデジタルガレージ社がその広告枠の販売を担当し本格的なDOOH(Digital out of home)メディアの収益化が今後計られる事になります。

IOTビジネスのPlatform化と進化１

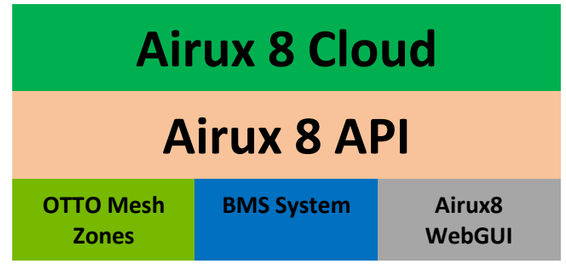


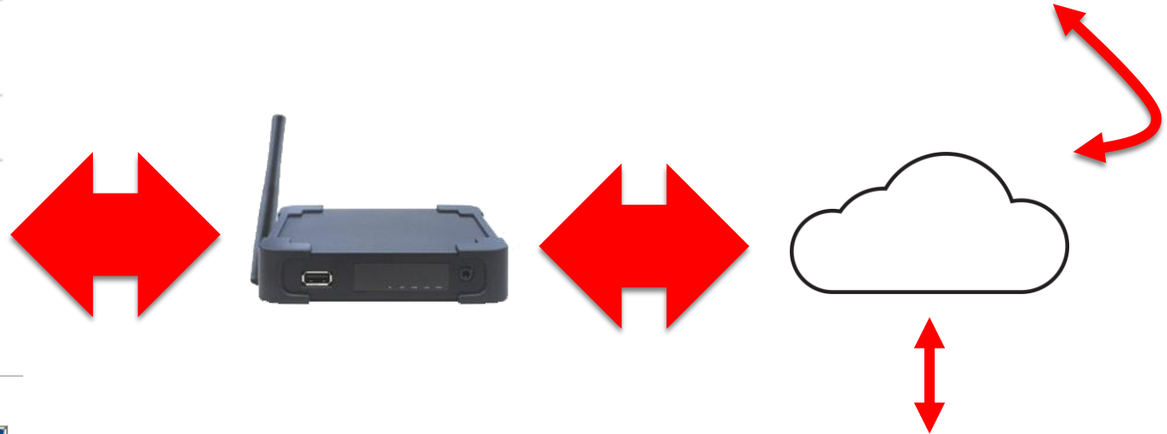
センサーにより人の偏り検出

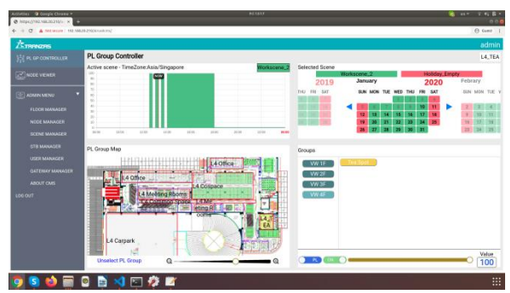


AIRUXによるエネルギーの制御

TRANZAS Asia Pacificで物件への導入が予定されており、その後本格的営業がスタートいたします。



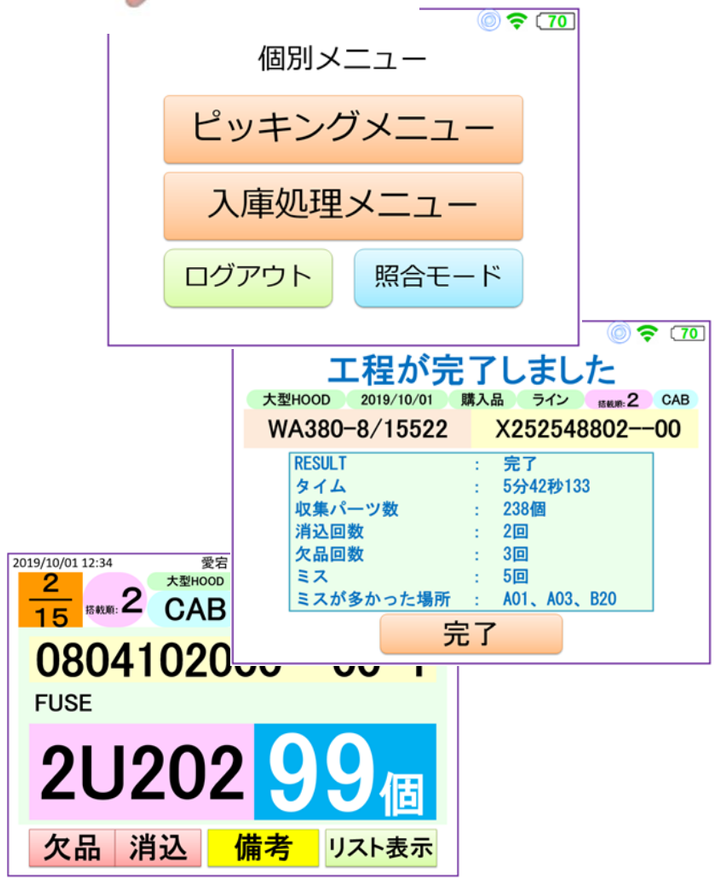




当社では、販売収益と制御対象機器の導入費の15%が収益として得られます。月額サービスとしての展開も計画中です。

IOTビジネスのPlatform化と進化２







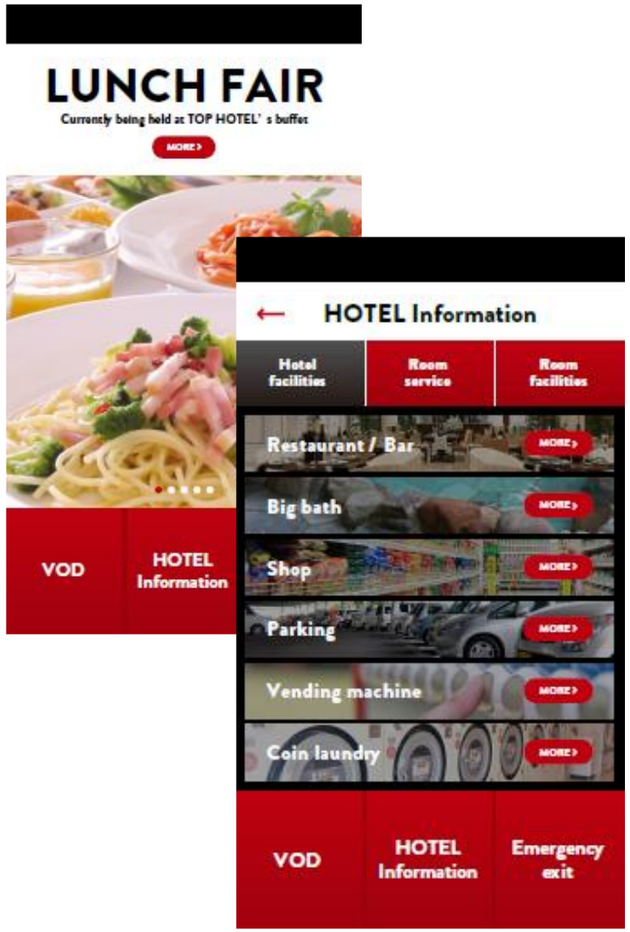


ロジスティックのピッキング業務効率を大幅に改善する強力なラインアップが完成しました。
人の動線パターンのトレース、ピッキング所要時間の計測など、CYGNUSのWearableとしての真価を発揮する準備が整いました。

IOTビジネスのPlatform化と進化３

スマホを利用した、テレビ連動ホスピタリティーサービスNGH



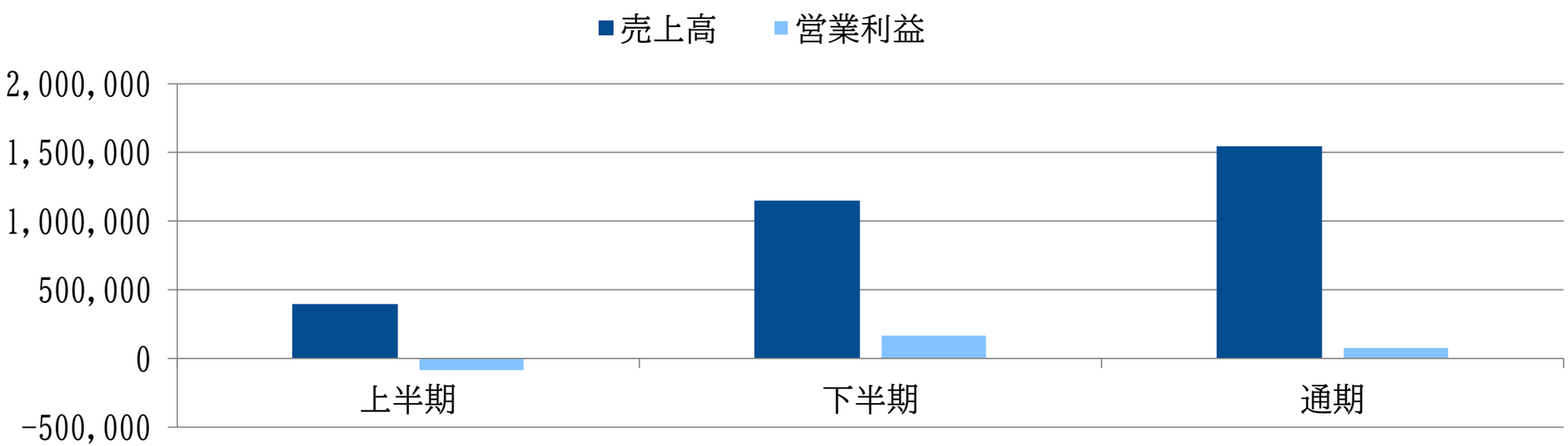


凸版印刷株式会社と共にホテルに営業展開を開始いたしました。
大手チェーンホテルへの反響が大きく、設置面数のスピーディーな獲得と
提供サービスメニューの開発を進めてまいります。

2021年1月期予想

単位：百万円

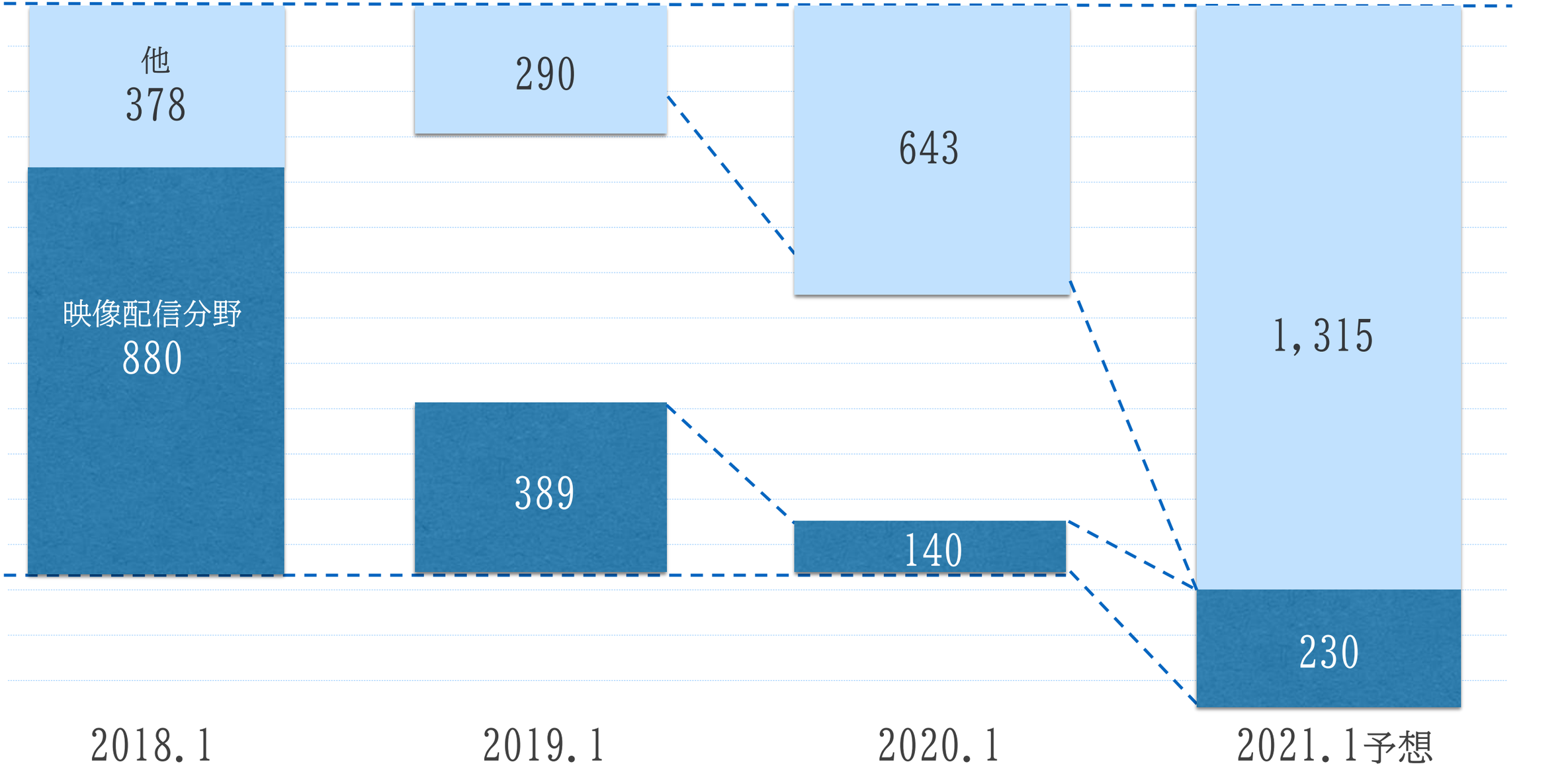
	FY21予想	FY20　実績	対比
売上高	1,545	783	+762 197%
営業利益	81	▲103	+184 —
経常利益	81	▲102	+183 —
親会社株主に帰属する当期純利益	68	▲122	+190 —



2021年1月期にて過去からの業務転換は完了いたします。

2018年1月期迄のビジネスの主軸は、映像配信でしたが（頁１１参照）、今期より主軸ビジネスはIoT及び新しいメディアプラットフォームビジネスに完全に転換され、業務転換後の新しいビジネスで今後は業績の拡大を目指す事になります。

単位：百万円



2021年1月期より、ITサービスとメディアPlatformが急拡大する事を予定いたしております

メディアPlatformサービスは、広告収益のレベニューシェアーが主軸となりますが、そこには、当社のクラウド配信技術の利用料・顔認識技術の利用料など、当社の有する幅広いIT技術サービスが含まれます。　当サービスは新しいビジネス区分ではありますが、ITサービスが背景にある為、ITサービス分野に合算して表記いたしております。

単位：百万円

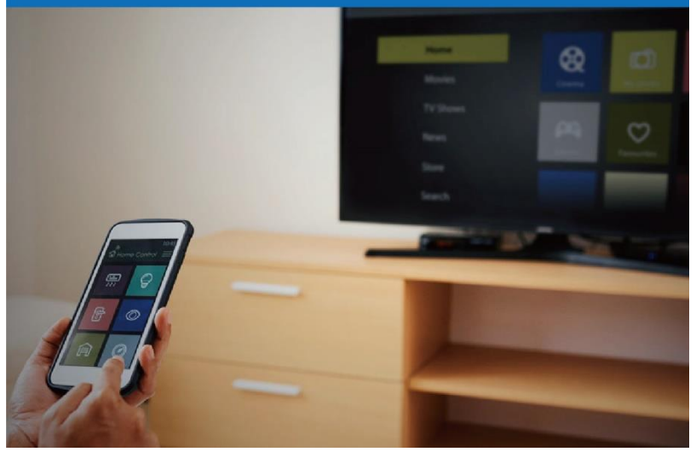
	FY21予想	FY20実績
Hospitality市場	230	370
Enterprise市場	243	197
IoTソリューション	473	567
IT技術	173	146
ITサービス and メディアPlatform	899	68
合計	1,545	783

業務転換の完結　新しい価値の創造と飛躍のスタート
２０２０年　TRANZAS 2.0の始動

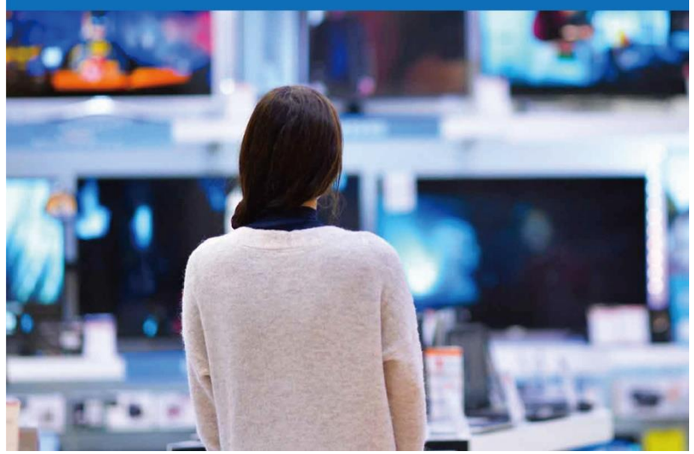
デジタルトランスフォーメーション



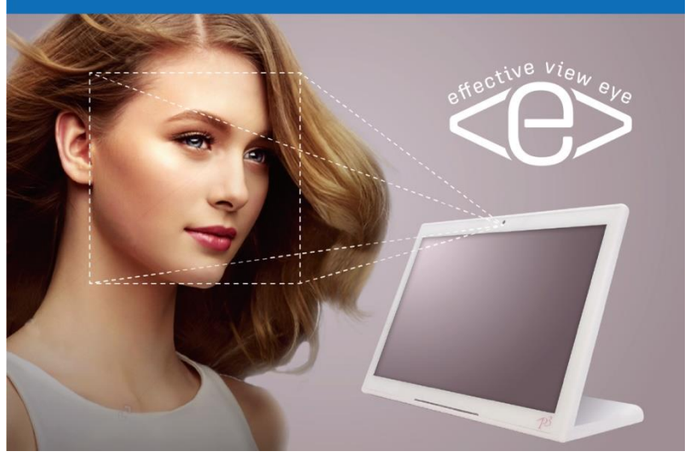
ホスピタリティー



デジタルサイネージ



ITサービス



・ 本資料には、当社に関連する見通し、将来に関する計画、経営目標等が記載されております。これらの将来の見通しに関する記述は、将来の事象や動向に関する現時点での仮定に基づくものであり、当該仮定が必ずしも正確であるという保証はありません。様々な要因により実際の業績が本資料の記載と著しく異なる可能性があります。

・ 別段の記載がない限り、本資料に記載されている財務データは日本において一般に認められている会計原則に従って表示されております。

・ 当社は、将来の事象などの発生にかかわらず、既に行っております今後の見通しに関する発表等につき、開示規則により求められる場合を除き、必ずしも修正するとは限りません。

・ 当社以外の会社に関する情報は、一般に公知の情報に依拠しております。

・ 本資料のいかなる部分も一切の権利は当社に属しており、電子的または機械的な方法を問わずいかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようにお願いいたします。